

現在、日本経済のグローバル化と雇用の流動化に伴い、多くの外国人の人が日本にやってきています。泉佐野市においても、関西国際空港の玄関口として、多くの外国人の人が住んでいます。また、昨年12月に「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置の一部を改正する法律」が成立したことに伴い、今後、外国からたくさんの人びとが日本に住むようになることが予想されます。このような状況の中、共生社会をめざし、小・中学校で「国際理解教育」の取組が進められています。

小学校では、地域のゲストティーチャーを招いての異文化交流を始め、高等学校に在籍している外国籍の生徒と交流しています。また、いろいろな国の挨拶を知ることから始め、それぞれの国の文化を調べて発表しています。中学校では、教材を使っての事前学習から始め、実際に異国の文化に触れるフィールドワークを実施するなど、児童生徒たちが積極的にいろいろな国の文化に触れ、日本との文化の違いを実際に感じ、広い視野をもち、異文化に対する理解や異なる文化を持つ人びとと、共に協同して生きていく態度などの育成に努めています。そして、「どちらが正しく、どちらが誤っている」ということではなく、「違い」を「違い」として認め、それぞれの価値を尊重し合うことができる児童生徒を育成し、実際に行動に移すことのできる取組を進めています。

国際理解教育の推進について

いずみさの教育



問合先
学校教育課



学校園紹介

もしもの時にどうするか？
～はるかこども園～

今年度から「幼保連携型認定こども園」として新たなスタートを切り、0～5歳の全園児およそ200人が、クラスや学年、異年齢の仲間と楽しく関わり合いながら日々成長しています。

はるかこども園では、心はずむ体験や人との繋がりを通して、共に育ち合うことを大切に保育に取り組んでいます。また、非常変災時に備えて様々な避難訓練や体験を行っています。

【もしもの時に備えての取組】

●非常食体験…毎年11月には、園に備蓄している非常食を実際に食べる体験をします。4・5歳児が集い、電気やガスが使えないとどうなる？と考えて、非常食の必要な状況を想定し、作り方を実際に見たあと、ブルーシートの上で簡易の容器を使用して、カレーライスを食べました。



非常食体験の様子

●小学校への避難訓練…大津波警報発令を想定し、上之郷小学校の協力の下、今年も4・5歳児がライフジャケットを着用し、校庭までの避難を体験しました。

「災害はいつ起こるかわからない」という危機感を持ち、様々な災害を想定しながら、園児も職員も、いざという時の対処が出来るように日頃から訓練などを行うとともに、命を守ることの大切さを伝えていきたいと考えています。

大空にひびけコンサート
～長坂小学校～

本校では16年間「大空にひびけコンサート」を開催しています。低学年グループは、学年ごとに合奏と合唱を発表します。高学年グループは、クラスごとに合唱曲を決め、「大空にひびいたで賞」の獲得をめざした合唱コンクールを行います。



2学期に入ると、学年（学級）目標や個人目標を考え、一人ひとりの決意表明をし、本格的な練習へと取組を進めます。授業時間だけでなく、朝の長坂タイムや終わりの会なども使ってたくさん練習を重ね、本番を迎えます。

合唱の審査基準は「①表情 ②口の開き方 ③歌声の大きさ ④指揮者を見ているか ⑤学級のまとまり」です。子どもたちは家に帰っても楽器の練習をしたり、歌を歌ったりして、より上手くできるように努力しています。

直前には、ペア学年で交流の場をもちます。お互いの発表を聞き合い、感想や改善点を出し合うことで、当日に生かせるようにしています。

当日は、保護者や地域の人で体育館がいっぱいになります。会場で見守ってくださる人に応えるように、子どもたちは練習の成果を発揮します。かけ声や手拍子など、独自のパフォーマンスを披露し、創意工夫をして会場を盛り上げます。楽しい雰囲気したり、素晴らしいハーモニーで観客を魅了させたりしている時の子どもたちの表情は、いきいきと輝いています。たくさんの人に応援していただくことで、子どもたちのモチベーションが上がり、ベストを尽くすことができます。

このような子どもたちの自尊感情を高める取組を継続して、よりよい学校づくりに努めてまいります。

